



*Ensemble Dimanche*

# アンサンブル ディマンシュ 第93回演奏会

2023年9月16日(土)

府中の森芸術劇場 ウィーンホール

## 【プログラム】

ロッシーニ	歌劇「パルミラのアウレリアーノ」序曲 (歌劇「セビリアの理髪師」序曲)
アリアーガ	交響曲ニ短調 ♪♪ 休憩 ♪♪
メンデルスゾーン	交響曲第5番ニ短調 Op.107 「宗教改革」

## 【曲目紹介】

今回の曲目は、イタリア、スペイン、ドイツの作曲家の作品です。一見何の繋がりもないプログラムのように見えますが、3人の作曲家と3つの作品には、意外な共通点があります。

イタリアの作曲家ロッシーニ(1792-1868)は、1823年にフランスのパリに移住し、1836年までパリに在住しています。この間、1824年には、パリ・イタリア座の音楽監督に就任しています。スペインの作曲家アリアーガ(1806-1826)は、1821年にパリ音楽院に留学し、1826年に亡くなるまでパリに在住しています。ドイツの作曲家メンデルスゾーン(1809-1847)は、1825年に父に随行してパリに滞在し、ケルビーニやロッシーニからその才能を認められたと言われています。この時すでに数曲のオペラや交響曲第1番などを作曲しています。ケルビーニ(1760-1842)は、イタリア出身のオペラ作曲家で、1788年からパリに定住し、1822年にはパリ音楽院の院長に就任しています。当然ロッシーニとは面識があるでしょうが、アリアーガの恩師でもあります。つまり、今回の3人の作曲家は、同時期にパリに滞在し、ケルビーニを通じてお互いに面識がある可能性があるのです。

また、3つの作品には、序奏が長調で主部は短調という共通点があります。ロッシーニの序曲はホ長調からホ短調に、アリアーガとメンデルスゾーンの交響曲の第1楽章は、ともにニ長調からニ短調に転じます。特にこの時代の交響曲では、長調の序奏から短調の主部に転じるのは極めて珍しいことです。(ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンの短調の交響曲には、序奏すらありません。)一つの演奏会で、すべての曲がこのコンセプトで統一されているのは、奇跡に近いと言えます。

### ◆ロッシーニ: 歌劇「パルミラのアウレリアーノ」序曲 ～実は有名な序曲

ロッシーニは、1813年(21歳)に「パルミラのアウレリアーノ」という歌劇(以下「パルミラ」という。)を完成します。ローマ皇帝アウレリアヌスがパルミラ(現シリア領)を征服した史実を題材としたこの歌劇は、現在ではほとんど上演されることはありませんが、その序曲は、歌劇「セビリアの理髪師」(以下「セビリア」という。)序曲としてよく演奏されています。

「パルミラ」序曲は、1815年に歌劇「イギリスの女王エリザベッタ」(以下「イギリス」という。)の序曲として転用されますが、その時に主旋律や楽器編成(ピッコロや3本のトロンボーンが加入)などに手が加えられています。さらにこの序曲は、1816年2月20日に初演された「セビリア」の序曲として再転用されるのですが、「セビリア」の自筆譜には序曲が欠けているため、その初演時に「パルミラ」序曲、「イギリス」序曲のどちらが使われたのかは不明です。ただ、「1816.X(10?).26」の日付のある「セビリア」全曲版の手書きスコアにある序曲には、「イギリス」序曲が使われているので、初演時にも「イギリス」序曲が使われた可能性が高いのですが、「セビリア」の歌劇本体の楽器編成は小規模で、トロンボーンなどの楽器が入っていないことから、編成の小さい「パルミラ」序曲が使われたという説もあり、後に「パルミラ」序曲を付けた「セビリア」全曲版が出版されました。そのため、「セビリア」序曲には、2種類の異なる版が混在しているのです。

この2種類の版、楽器編成の違いのほか、主部の第一主題に「明確な」違いがあるので、その部分を聴けばどちらの版かが分かります。この曲の主部の第一主題のモチーフが1970年に流行し2020年にカバーされた歌謡曲「老人と子供のポルカ」の歌い出しに似ているので、それぞれのモチーフにその歌詞を付けてみます。「イギリス」序曲版をこの歌詞で歌うと「\*ヤメテケレ、\*ヤメテケレ」(\*は八分休符)とピッタリハマります。しかし、「パルミラ」序曲版をこの歌詞で歌うと「\*ヤメテケレ、\*\*メテケレ」となってしまいます。つまり「パルミラ」序曲版では、2回目の八分音符が一つ欠けているのです。ちなみに当団では、「ヤメテケレ版」、「メテケレ版」と呼んで区別しています。(これ、本当の話。)今回演奏するのは、「メテケレ版」の方です。

なお、「セビリア」序曲の「メテケレ版」には、元来バストロンボーン(バストロ)が入っていましたが、近年バストロのない版が出版されています。これは、原曲の「パルミラ」序曲にバストロがないことから、それを踏襲したものと思われます。今回の演奏会では、原曲に合わせたこの新しい版を使用し、曲名を「パルミラ」序曲としました。

## ◆アリアーガ:交響曲ニ短調 ～「スペインのモーツァルト」が作った唯一の交響曲

アリアーガは、モーツァルトが生まれた50年後の同じ日(1806年1月27日)に生まれたスペインの作曲家です。モーツァルト同様「神童」と呼ばれ、13歳でオペラを作曲して、15歳でパリ音楽院に留学しますが、残念なことに、20歳になる直前(10日前)に亡くなってしまいます。死因はよく分かっていません。モーツァルトと誕生日が同じことや、その天才ぶりと短命さから「スペインのモーツァルト」と称されています。しかし、アリアーガは、スペインと言ってもビルボ(ビルバオ)というバスク地方の都市で生まれたバスク人です。バスク地方は17世紀にフランスとスペインによって北と南に分割され、両国の領土となりますが、民族や言語が両国とは異なり、独自の文化圏を形成しています。しかもアリアーガはフランスのパリ音楽院に留学してパリで没していることから、「スペインの」という冠語が適当かどうか、疑問が残ります。ちなみに「ボレロ」で有名なラヴェルは、フランスの作曲家に分類されますが、やはりバスク人でフランス領の北バスク地方の出身です。

この曲は、アリアーガが1824年、弱冠18歳のときに書いた唯一の交響曲ですが、すでにその天才ぶりが発揮され、古典的な中にもロマンチズムに溢れた作品となっています。せめて10年長く生きていたらどんな交響曲を書いていたのかと思うと、夭逝が悔やまれます。ちなみに1824年と言えば、ベートーヴェンの「第九」がウィーンで初演された年です。「第九」は1831年にアリアーガが留学していたパリ音楽院の管弦楽団によってパリで初演されますが、残念ながらアリアーガはすでに他界していました。

### 第1楽章 Adagio (ニ長調 4/4拍子) - Allegro vivace (ニ短調 2/4拍子)

オペラの序曲を思わせる堂々としたニ長調で序奏が始まりますが、すぐに短調に変わり調性は不安定になります。最後はニ短調の激しい主題を持つ主部に勢いよく突入します。

### 第2楽章 Andante (イ長調 4/4拍子)

三部形式の緩徐楽章です。弦楽器がユーモラスな第一主題を歌い始めます。主題の前半はユニゾンですが、珍しくコントラバスも一緒に旋律を弾いています。第二主題はシューベルト風の美しい旋律です。

### 第3楽章 Menuetto, Allegro (ニ長調 3/4拍子)

メヌエットとトリオです。テンポの速いメヌエットはシンコペーションが印象的で、スケルツォを思わせます。トリオは、楽しい旋律をフルートが歌い、弦楽器が長和音で伴奏します。

### 第4楽章 Allegro con moto (ニ短調 2/4拍子)

「ターンタタ」というリズムを持った主題で始まり、このモチーフが全体を支配しています。その裏で、第2ヴァイオリンが「地獄の三連符」で伴奏しています。

## ◆メンデルスゾーン:交響曲第5番ニ短調Op.107「宗教改革」～ルターの讚美歌が引用された交響曲

メンデルスゾーンは、1829年、初のイギリス訪問からの帰国後、翌年6月にベルリンで開催される「宗教改革300年祭」で演奏するため、交響曲の作曲を開始します。曲の完成が遅れたこともありますが、周辺国の政治情勢や他の宗派の妨害で祭自体が中止になったため、結局この交響曲は演奏されませんでした。その後メンデルスゾーンは演奏旅行に出かけ、パリなどの各地でこの曲の演奏を試みますが、叶いませんでした。この曲が初演されたのは、ベルリンに戻った1832年の11月でした。すぐには出版されず、初出版は死後の1868年になってからです。そのため、この曲は、第1番に次ぐ2番目の交響曲にも関わらず、第5番となっています。生前に出版されなかったのは、メンデルスゾーンがこの曲の出来に満足せず、何度も書き直し、出版を認めなかったからだと言われています。

この曲は、第4楽章に宗教改革で有名なマルティン・ルターが作った讚美歌「Ein veste Burg ist unser Gott(神はわがやぐら)」が引用されていることから、「宗教改革」という愛称で呼ばれています。「Ein veste(feste) Burg」には「堅固な城砦」の意味があります。また、第1楽章では「ドレスデン・アーメン」のモチーフが引用され、宗教色を濃くしています。

この曲は4つの楽章から成っていますが、初稿では、第3楽章と第4楽章の間にフルート・ソロを中心とした「レチタティーヴォ(語りの歌)」の楽章があり、終楽章に続いていました。現在の第4楽章がフルート・ソロで始まるのはその名残です。手書譜を見ると、その楽章全体に×が付けられ、改訂の際にまるごと削除されたことが分かります。

### 第1楽章 Andante (ニ長調 4/4拍子) - Allegro con fuoco (ニ短調 2/2拍子)

ヴァイオリン以下の弦楽器と管楽器がフガートのように重厚なモチーフを奏でる序奏で始まります。一段落すると弦楽器により「ドレスデン・アーメン」のモチーフが2回演奏され、「火のように」と標記されたニ短調の主部に入ります。

### 第2楽章 Allegro vivace (変ロ長調 3/4拍子)

標記されていませんが、弾むような付点のリズムを持ったテンポの速いメヌエットです。トリオはト長調に変わり、民謡風な旋律をオーボエの二重奏が歌い、弦楽器がピチカートで伴奏します。

### 第3楽章 Andante (ト短調 2/4拍子)

第1ヴァイオリンが物悲しい無言歌を歌い、内声の弦楽器が涙のような16分音符の刻みで伴奏します。最後に第1楽章の第二主題のモチーフが回想されて、切れ目なしに第4楽章に入ります。

### 第4楽章 Andante con moto (ト長調 4/4拍子) - Allegro maestoso (ニ長調 4/4拍子)

自筆譜には、楽章の冒頭に「Choral: Ein veste Burg」と書かれています。冒頭、フルートが無伴奏でこの讚美歌を歌い出すと、他の楽器が追随します。この讚美歌のモチーフが使われた6/8拍子の速い経過部から主部に雪崩れ込むと荘厳な第一主題が呈示されます。

## 【指揮者プロフィール】

### 平川 範幸(ひらかわ のりゆき)



福岡県出身。

福岡教育大学卒業。上野学園大学研究生(指揮専門)にて下野竜也、大河内雅彦の各氏に師事。桐朋学園大学オープンカレッジにて、黒岩英臣、沼尻竜典の各氏に師事。東京音楽大学特別講座にて、パーヴォ・ヤルヴィの指揮公開マスタークラスを受講する。

これまでに、音楽理論を中原達彦氏に、ピアノを田中美江氏に師事。

新日鉄住金文化財団指揮研究員として、紀尾井シンフォニエッタ東京、東京フィルハーモニー交響楽団のもとで活動する。その後東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員として、宮本文昭、飯守泰次郎、矢崎彦太郎の各氏をはじめとする指揮者のもとで研鑽を積む。

これまでに、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪交響楽団、千葉交響楽団、浜松フィルハーモニー管弦楽団、東京混声合唱団、広島ウインドオーケストラなどを指揮する。

2016年より2021年まで、仙台ジュニアオーケストラ音楽監督を務める。

### ♪ 第93回メンバー ♪

第1ヴァイオリン	三瓶政一、☆時山響子、戸張純一、西川富之、西村 実、本山まり子
第2ヴァイオリン	相羽あゆみ、石嶺寿子、中村 要、中村文樹、♪森 未知、森上由紀
ヴィオラ	柴野かおり、下山純也、♪関口孝司郎、山口 彰
チェロ	植田圭司、緒方 淳、永田隆司、藤村ゆ香、♪三次摂子
コントラバス	江川博之、♪須賀敬亮

☆コンサートマスター ♪弦楽トップ

フルート	谷口玲子、徳植俊之
オーボエ	伊藤佐保子、市川亜理
クラリネット	鈴木千暁、中嶋智子
ファゴット	越島康太郎、橋本ひろみ、星野未央
ホルン	尾形武一、友田昭博、町田明子、由川 裕
トランペット	内田直大、菌部晴信
トロンボーン	嶋川友輔、桜田健彦、星野佑太
パーカッション	千秋修子、星野武徳

トレーナー	戸澤哲夫 (東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター)
練習指揮	山上孝秋

### ♪ 次回の演奏会ご案内 ♪

日時：2024年2月11日(日)

場所：杜のホールはしもと

指揮：平川 範幸

曲目：ベートーヴェン バレエ「プロメテウスの創造物」序曲Op. 43

モーツァルト 交響曲第25番ト短調K184

シューマン 交響曲第1番変ロ長調Op. 38「春」



詳細はHP <http://www.e-dimanche.jp/> をご覧ください。

※招待券をご希望の方は、アンケートにご記入ください。

# 本日のアンコールについて

本日のアンコールは、

**メンデルスゾーン：**

**劇付随音楽「真夏の夜の夢」op.61～結婚行進曲**

でした。



「結婚行進曲」といえば、この曲とワーグナーの歌劇「ローエングリン」の中の「婚礼の合唱」が双璧をなしています。この曲を聴いたことのない人はいないと思いますが、この曲がシェイクスピアの喜劇「真夏の夜の夢」の付随音楽としてメンデルスゾーンが作曲したものであるということは、意外と知られていないかもしれません。

指揮者かメンバーか、誰かが結婚するお祝いかと思った方もいるかもしれませんが、特にそういうことで選んだわけではありません。巷では有名人の結婚話が出ていますが.....。

シェイクスピアの戯曲の原題は「*A Midsummer Nights Dreame (A Midsummer Night's Dream)*」ですが、この「*Midsummer Night*」は祭りが行われる夏至の前夜を意味するので「真夏の夜」と訳すのはおかしいと、日本では「真夏論争」が物発しました。しかし、実際には、戯曲の作者が「盛夏」なのか「夏至」なのか、どちらの意味でこの言葉を使っているかは、分かっていません。最近では、折衷案で「夏の夜の夢」と言われることが多くなっていますが、変化を好まない古い人間には違和感があります。夏至も暦の上では「真夏」とも言えるし、夏至の祭りよりお盆の方が浸透している日本では、「真夏」と訳した方がピンとくるのではないのでしょうか。ただし、メンデルスゾーンの劇音楽の原題は、ドイツ語の「*Ein Sommernachtstraum* (アイン・ゾンマー・ナハト・シュトゥラウム)」です。これだと「夏の夜の夢」と訳すべきかもしれませんね。ちなみに、ドイツ語で「真夏」は、「*Hochsommer* (ホッホ・ゾンマー)」と言うらしいです。